

45周年記念事業「グローバルリズム研修会」



展示会場外観

FE社講義

JETRO講義

青年懇話会は楽しくだけではなく、真面目に身になる活動を行うことを目的としています。

青年懇話会は今期で45周年を迎え、記念事業の一環として「グローバルリズム研修会」と題し、海外研修を企画・実施しました。企画の段階から国の選定、目的、何を行うか検討を重ね、数ある国と地域の中からタイ・バンコクに決定しました。展示会先進国であるシンガポールや身近な台湾、韓国などの意見もありましたが、主な選定理由としましては完成された場所に行くのではなく、未完成且つ活力あふれる場所が相応しいのではないかと。また、新興国の情熱や元気を吸収したいと思ったからです。

さて、今回の研修会は6月23日～6月26日に掛け、総勢17名で行って参りました。1日目、まずはバンコク最大級の展示会場であるBangkok International Trade & Exhibition Centre通称BITECへ向かい、「Manufacturing EXPO」を視察しました。展示会場は約78,000m²有り、1つ1つのブースを真剣に訪問すれば1日でも見て回れないほどでした。限られた時間ではありましたが、参加した各々が日本とタイの差分を感じたのではないのでしょうか。

続いて東南アジア最大級の商業施設「セントラル・ワールド」を視察しました。売り場の延べ床面積は50万m²以上有り、出店企業は日本と遜色ありません。客層は地元の人以上

に観光客や外資系企業の家族が多かったように思います。バンコクは思っていた以上に多国籍であると認識をしました。

2日目は座学です。会議室にて現地でディスプレイ業を営む企業から講義を受け、タイの方の気質や装飾などを学びました。また、JETRO（日本貿易振興機構）のバンコク事務所にて、アドバイザーからタイの一般経済について、歴史、政治、宗教などを交え学びました。タイについてのバックグラウンドが知れた良い機会になりました。

3日目は3班に分かれ、アユタヤ遺跡訪問や水上マーケット体験などを行い、歴史を学んだり、タイの日常生活に触れたりと各々思い思いの行動をし、歴史ある新興国の情熱や元気、逞しさを吸収しました。

今回の研修会はバンコク及び、その近郊に訪問は留まったものの、様々な角度からタイの一端を知ることができました。また、タイを知ることによって日本の現状も少し分かったように思います。

このような機会を設けてくださった方々に感謝します。

青年懇話会は今後も楽しく、真面目に活動を続けて参ります。

広報委員・青年懇話会 事業委員

奥下 耕平／株式会社ニップコーポレーション